

# 巻頭言

## 国際交流について思うこと

日本油化学会 国際交流委員会 委員長 田中成佳



2017年4月に前任の妻鳥氏より国際交流委員会委員長を引き継ぎました。国際交流の観点から日本油化学会の発展に貢献したいと思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

日本油化学会(JOCS)の現状については、本誌第17巻第6号の巻頭言で河合会長が述べられていますように、研究・人的交流、学術振興・普及活動などは会員各位のご努力により概ね良好であるものの、財政的には不安定で、本年度より年会費の値上げをお願いせざるを得ない状況になっています。

このような状況下、海外から研究者を招いて国際交流を推進することは厳しく、法人会員企業からの協賛金に頼っている現状が少なからずあります。昨年(2017年)の定時総会にて、将来構想委員会委員長、北本大氏(産業技術総合研究所)から「日本油化学会の持続的な発展に向けての提言」の報告がありました。その中の財政健全化に向けて、「年会を最大行事化しリソースを集中する一方で、それ以外のすべての行事を「ゼロベース」から議論する必要がある」と提言されています。特に、国際学会の開催や海外学会との連携に対する学会員や産業界のニーズは必ずしも明確でなく、慣例的に継続されている点も否めないと指摘をされています。この点に関しては国際交流委員会でも議論を進める必要があると考えます。本学会は産業界とかかわりの深い学会ですので、産業界の立場から国際交流の意義について思うところを述べてみたいと思います。

私は3点あると思っています。1つ目は技術情報の収集です。世界中の優れた技術や異質な考え方に直接触れることは、自身が直面する課題解決や自身の研究の新しい展開に役立つ可能性を期待します。2つ目は、事業の海外展開の為に人的ネットワークの構築です。日本経済が飽和する中、海外進出は企業の生き残りをかけた戦略のひとつです。その為には、国際交流を通じて海外での人的なネットワークを構築し事業展開に必要な機能を整える必要があります。特に油脂産業における「食」や「洗浄」などに関わる身の回り品は、各地域特有の環境で育

まれた慣習に強く影響をうけますので、現地採用の研究員による商品設計やビジネスモデルの構築が成功のカギを握っています。その意味でも各企業が国際交流を通じて、情報発信力を高め、優れた人材を獲得することは大きなアドバンテージにつながると思います。そして3つ目は、地球的規模の課題の解決に向けた対話の機会です。皆さんはSDGs(エスディーゼーズ)<sup>#1</sup>という言葉をご存知かと思います。Sustainable Development Goals(SDGs)は日本語では持続可能な開発目標と訳され、2015年9月に開かれた「国連持続可能な開発サミット」にて、150を超える加盟国首脳参加のもと採択された2030年までに解決すべき17の課題項目です。「誰も取り残さない」理念のもと、将来のあるべき社会像を示しており、それに向けて167のより具体的な目標も盛り込まれています。国際社会がこれらの目標を円滑かつ効率的に達成するために、先進国・途上国を問わず、産学官がお互い連携・協力していくことが益々重要となっています。企業においては、SDGsを「持続可能性に関わる企業としての存在価値向上」から、「新たなビジネスチャンス」と捉えるようになってきており、本業とリンクさせて中核事業に育成する動きが出てきています。SDGsを見てみますとオレオサイエンスの果たす役割は少なくありません。例えば、目標2の「飢餓をゼロに」では、栄養改善や食料増産に関わる知見や技術が求められます。目標3の「すべての人に健康と福祉を」では食品の安全性や汚染浄化が必要とされます。目標6の「安全な水とトイレを世界中に」では殺菌、浄化の知見が活かされてくると思います。目標13の「気候変動に具体的な対策を」では循環資源である油脂に根差した価値創出を更に推進していくことが、この目標に合致してくると思います。日本は高度成長期に環境汚染を克服し、今また高齢化という社会課題にも向き合い解決しようと取り組んでいます。周辺アジア諸国は日本がすでに経験してきたような社会課題に向き合っており、日本の経験や科学技術は大いに期待されています。SDGsが採択され広く認識されたことで、国際交流の機会に共通の目標のもとでの議論

が可能になり、グローバルな社会課題解決につながる新たなビジネスチャンスを考えるきっかけになると思います。

産業界と繋がりが強くすそ野の広い日本油化学会は、オレオサイエンスをSDGsに近づくドライバーのひとつと捉え、周辺諸国との国際交流を通じてサイエンスをテクノロジーにかえ社会実装につなげていくためのプラットフォームの役割も果たすことができるのではないのでしょうか。そしてSDGsを意識してオレオサイエンスを深めていくことは日本油化学会の持続的な発展につながると確信します。また、実りのある国際交流を通じて、グローバルに活躍できる人材が日本油化学会からどんどん輩出されることを期待します。

最後に本年9月4～6日の日程で神戸学院大学有瀬キャンパスで開かれる第57回年会ではアメリカ油化学会

(AOCS)とのジョイントシンポジウムを同時開催いたします。「Biotechnology」、「Health And Nutrition」、「Edible Application Technology」、「Surfactants And Detergents」の4セッションで構成し、AOCSから16題、JOCSから16題の発表があります。9月6日の本ジョイントシンポジウムには、ご関心のあるセッションにご参加いただき、「あなたの研究はSDGsにどのように貢献しますか?」と議論をしてみたいかがでしょうか?そして国際交流を楽しみ、人的ネットワークを是非広げていただきたくお願い申し上げます。

(花王 研究開発部門)

#1 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000270935.pdf>

The 57th Annual Meeting of the Japan Oil Chemists' Society

# 日本油化学会第57回年会

## JOCS-AOCS Joint Symposium 2018

©一般財団法人神戸国際観光コンベンション協会



会期

平成  
30年

9月4日(火) - 6日(木)

会場

神戸学院大学有瀬キャンパス

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

主催

公益社団法人 日本油化学会

プログラム

PROGRAM

- 一般講演 (口頭およびポスター発表)
- 受賞講演
- 特別講演
- 教育講演 参加無料
- 主題シンポジウム
- 部会シンポジウム

JOCS-AOCS Joint Symposium 2018  
(September 6, 2018)

テーマ  
シーブズとニーズのマッチング



懇親会

平成30年9月5日(水)

神戸西神オリエンタルホテル

〒651-2273 神戸市西区靴台5-6-3

<http://www.seishin-oh.co.jp/>

年会事務局

日本油化学会第57回年会実行委員会事務局

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

E-mail: [nenkai\\_2018\\_kobe@jocs.jp](mailto:nenkai_2018_kobe@jocs.jp)

実行委員長: 戸谷 永生・小野 大助

総務: 老田 達生・村岡 雅弘

<http://www.jocs.jp/nenkai57/>

